

平成 27 年度飯塚市歴史資料館企画展

広岡浅子と

明治時代の筑豊炭鉱

平成 27 年 10 月 1 日(木)～12 月 1 日(火)

開館時間／9:30～17:00(入館 16:30 まで)

休館日 10 月 7・14・21～23 日 主催 飯塚市教育委員会



若き洋装姿の広岡浅子（大同生命保険提供）



明治 32 年（1899）頃の潤野炭坑



坑内での人力による採炭風景

飯塚市歴史資料館

〒820-0113 福岡県飯塚市柏の森 959-1

TEL・FAX 0948-25-2930

入館料 大 人 220 円（160 円）

高校生 110 円（ 70 円）

小中学生 50 円（ 30 円）

※（ ）内は 20 人以上の団体料金

※土曜日は高校生以下無料

広岡浅子と明治時代の筑豊炭鉱

広岡浅子は京都・出水三井家の出身で、大阪の豪商・加島屋に嫁ぎ家業を立て直し、筑豊の炭鉱経営を経て、日本女子大学の創設に尽力し、大同生命保険の設立に携わりました。江戸時代末期・明治・大正の激動の時代を駆けぬけた浅子の生涯の中で強烈に印象づけるものは筑豊の炭鉱、潤野炭坑とのかかわりです。

明治 19 年（1886）に夫の広岡信五郎は福岡県穂波郡潤野村（飯塚市潤野）にあった潤野炭坑を買収し炭坑主となりました。潤野炭坑は明治 16 年に帆足義方が採掘を始めていた炭坑でした。

明治初期の筑豊炭鉱は江戸時代の福岡藩の統制がなくなり、一獲千金を夢見る旧藩士や農民、村役人たちが手がけました。その後国の政策と指導により大手資本が進出し、出炭量は増大し全国有数の産炭地となりました。

しかし、当時は新興産業で小炭鉱の多い筑豊は群雄割拠の状態でした。明治 10 年（1877）代には 600 余の炭鉱がありました。その後、機械化が進み、大規模化する採掘には豊富な資金が必要でした。大阪や東京に出資者をもとめ、浅子もそんな時代の流れに沿って筑豊飯塚の潤野炭坑にやってきました。

本展では、広岡浅子と潤野炭坑とのかかわりを中心に、明治時代の筑豊炭鉱について、古写真・古地図・記録など関連資料で紹介します。

◇展示資料 （1）広岡浅子と潤野炭坑

広岡浅子に関する写真など

潤野炭坑に関する写真・古地図・炭鉱札・記録・書籍など

（2）明治時代の筑豊炭鉱

高尾・伊岐須・相田・牟田・山内・鯉田・忠隈・目尾・官営二瀬炭坑など

主な明治時代の筑豊炭鉱写真

筑豊炭田関連地図

昭和 8 年飯塚市鳥瞰図

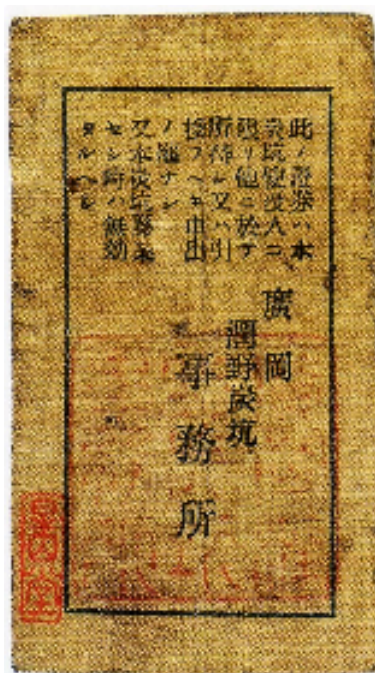
炭鉱関係書籍（筑豊炭礦誌・日本炭礦誌・筑豊石炭鑛業會五十年史など）

伊藤伝右衛門が嘉穂郡長からお礼にもらった鏡

中野徳次郎関係資料（相田炭坑銀杯など）



広岡浅子の夫、広岡信五郎
（大同生命保険提供）



広岡潤野炭坑事務所で使用されていた炭鉱札（右は表、左は裏）
（九州大学附属図書館記録資料館所蔵）